

青森県青森市、八戸市・岩手県盛岡市 出張報告要旨

1. 訪問目的

観光立国の実現に高い期待が集まっている中、青森・岩手両県においては、平成 22 年 12 月に予定されている東北新幹線の八戸から新青森までの延伸を控え、観光施策において地域資源を活用した取組が活発に行われている。また、コンパクトシティの取組や地域活性化に係る NPO 等の取組も見受けられる。

現在活発に行われている観光・地域活性化に係る取組につき、行政・NPO 等の現場の方々から情報収集し、現場の意見、アイデア、課題などを把握する。

2. 現地で得られた意見・アイデア

(1) 観光

- 魅力が「再発見」された観光地は、地元の方々だけではなく、外部の視点から「再発見」がなされたもの。地元だけでは魅力に気づきにくい部分もある。
- グリーンツーリズム等の新たな取組について、県外から移り住んで来た方のリーダーシップに基づき行われているものもある。
- 地域づくりと観光・産業施策がばらばらに行われており、これらを統一的に取組むことが重要。
- 二次交通の問題より、地域の魅力づくりが先。魅力をアピールできれば、多少交通が不便でも人は集まる。
- 映画撮影の誘致等については相当な売り手市場となっており、かなりの条件を提示しないと勝負にならない状況。
- インバウンド関連では、国として地方の魅力・コンテンツを集中的、継続的に国外に発信してほしい。外国人旅行者の大半は、1 回目は先ず東京・京都といったゴールデンルートに向かい、地方に足が向くのは 2 回目以降。いかにリピーターになってもらうかという観点から、継続性が肝要。
- 地域に観光客を呼び込むためには、その地域に元気があることが必要。

(2) 中心市街地活性化

- 中心市街地活性化の取組においては、都市計画法や農地法体系の中で、周辺土地利用の規制が行われない限り周辺に大規模小売店舗が進出してくるとは避けられず、限界を感じる。
- 地域公共交通に係る補助の充実への期待は大きい。

(3)「新しい公共」

- ビジネスとしてやるために、発起人は無給で早朝から深夜まで働いている。それくらい奮闘される方がいて、初めて成り立っている、というのが実情。
- やる気があっても、必要な情報を得られないためにどうしたらよいのか分からないでいる方々が全国に多い。やる気のある方々が新しい公共を担えるように、中間にたって行政と民間をつなぐNPOのような役割が重要。
- ソーシャルビジネスは資本力が足りないので、人件費や設備投資等の初期投資への支援は効果的。

3. 今後の検討事項

- 地域施策と観光関連施策の連携
- 地方の魅力・コンテンツの継続的な国外発信
- 今後の中心市街地活性化策のあり方
- 立上げにおけるサポートのあり方（新しい公共）

以 上